



(社)長野県建築士会  
諏訪支部

第 60 号

2009.3.10



できれば周辺も整備して、いつまでも残しておきたい建物であります

## 地元にある建築遺産「三村貴金属店様(昭和3年竣工)」

諏訪を代表する看板建築で、デザインは先々代当主と彫金師の弟さんで行ったそうです。半円形アーチの破風は大正13年竣工の東京駅にも見られますが、流行を取り入れ見事にまとめあげています。アーケードが撤去されたことにより当時の看板も甦りました。諏訪市本町商店街では支部まちづくり委員会も関わって、懐かしいホーロー看板や屋号が設置されるなど、レトロといやしのまちづくりが進行中です。



▲ デザインの似ている東京駅



## 支部長あいさつ

建築士会諏訪支部  
支部長

太田 清人

早いもので支部長を務め、2期4年が過ぎようとしています。副支部長の皆さんをはじめ役員の方々に支えられ、どうかここまで支部長という責任ある大役を勤めさせていただきました。改めて皆様へ感謝申し上げます。至らぬ点多々あったかと思いますが、私なりに出来たのかな、と感じております。姉齒事件により今までの建築業界の流れが大きく変わりました。提出書類は増え、審査は厳しくなり、さらには罰則までもが大きくなりました。

こうしたことで、建築産業全般に混乱を招いてしまい、景気の低迷をまねいてしまいました。更には経済状況の悪化がもの凄いスピードで進んでいます。今まで以上に仕事上の責任と手間がかかるようになってきたところに、仕事が激減。我々はこれからどうやって、生活しているこの地域の中で、生き残って行くかが、大きな課題であります。昨年の象徴する漢字は、変化、変革……などの「変」でした。今年の象徴する漢字を、と言われたら「力

と感じています。

激動の今を生き残るには「変化に柔軟に対応」する二つの「力」が求められます。「個性や能力」を伸ばす力「先祖からいただいた潜在能力」を引き出す力。個人や企業には、それぞれ個性・能力があります。地域にも、それぞれの特性があります。今の現状を受け入れる中で個性・能力・特性を伸ばしていく「力」が必要です。

そのためにも今、忘れかけている日本人固有の優れた「力」・「侍」・「勤勉」……などのような精神、「真っ直ぐで熱い血」を蘇らさなければならぬと思っています。

今は、原点である「命の恵みに感謝」しながら、「豊かな自然を取り戻す」中で、日本人本来の底力（大和魂）を発揮する時だと思っています。

会員の皆さん、それぞれの建築の専門の立場におかれまして、正しい「力」を伸ばしていくことが出来れば、この激動の時代を乗り切れると、私は確信しております。

建築士会は、職能を通じて地域社会に貢献していかなければなりません。また会員が地域社会より信頼を得られ仕事が出来るように、有益な情報発信や仲間作りの場となれるよう、更に努力してまいります。また会員の皆さんも個々の得意の力を磨きながら、共に頑張っていこうではありませんか。



## ままならない人生

建築士会諏訪支部  
副支部長

小林 雅

困難に負けずに努力する姿や、失敗を乗り越えて新しきを求める考えは、それが難しいほど私たちに新鮮な感覚と感銘を与えて、心に感動を呼び起こす。心を深く動かされるとき、そこには私たちそれぞれが持っている何かが働いています。心の中は垣間見る事は出来ませんし、物事の見方・考え方は色々です。年を経るに従い、体力の変化と共に感動する機会は年々少なくなるように思える。それはどうも、好奇心が無くなり学ぶ意欲（知的欲求）が低下しているためのようだ。

自分の衰えを自覚する昨今、記憶力の低下に伴い固有名詞は即座に思い出せず、アレ… コレ… ソレ…の世界に陥る。（しかし良くしたもので、連合いはその辺りが見事に判る。）また機転は利

かず、ユーモアや少しひねったジョークは、直ぐに笑えない。物事を順序だてて考える事すら面倒くさくなる。同年代の皆さんはどうでしょうか？

（エピソード）

「昔々、冬南へ向かうツバメは凍てついた地面に落ち、そこに牛が糞をしたのです。牛の糞は温かく、ツバメは唄を唄い始めました。するとそこへ猫が現れツバメを食べてしまいました。」

此の、冬に行動するツバメに少しばかり感動し、ユーモア（丑は今年の干支でもあります。）が解り、また教訓が理解できた方は、たぶん何の心配も要らないこと請け合いです。……（笑い）

〈フランス・ベーコン〉は随想録で、「読書は充実した人間をつくり、会話は機転のきく人間をつくり、書くことは正確な人間をつくる」と教えています。

ネット社会となり、コンピューターと向かい合う日々の中で、いつか蒞蓄（うんちく）の語れる人と成れるよう、せめてこれから毎日読書を始めようかと思う。

「壮にして学ばば、老いて衰えず」とか……



## 失敗に学ぶ

建築士会諏訪支部  
副支部長

西村厚志

よく聞く言葉ではあるが、私はとても大切な言葉と思っている。「失敗」と裏腹に「挑戦」という言葉があるからである。誰でも生まれながらに何でも出来る人などいない。ましてや完璧な人間などいるはずもないが、目標としては少しでも完璧に近づきたいと考えている。社会で生きるために必要なことを年月をかけて習得していく。その過程の中で、すぐに上手く出来ることもあれば、そうでないこともある。恐らくは後者の方が圧倒

的に多いのである。失敗をして諦めてしまっは結局そのことは習得出来ず仕舞い。故に人は皆欠陥人間なのである。失敗は当たり前、失敗があるからこそ挑戦する気持ちが起きる。その気力と努力で必ずや乗り越えることが出来るはずである。ヤッター。デキタゾー。と飛びあがる程喜んだこと、涙が出るほど感動したことが今まで何度もあったことを思い出す。思い出しながら、ふと今は若かりしあの頃の感動があまりないことに気が付いた。つまり、挑戦もなければ失敗もない。物事を無難に済ませる術を覚え、それに終始しているのではないのかと。年を拾うに従い失敗を克服するのは時間が掛かる。しかし、敢えてチャレンジしていかなければならないことはまだまだ一杯ありそうである。そう書きながら気持ちを奮い立たせる自分でありました。



## 住宅の設計は 建築士さんの仕事ですか

建築士会諏訪支部  
副支部長

大井一美

仕事は本筋の名称の業種でなくてもそれに力を入れている業界のものになります。

たとえば「おむすび」を販売する本筋は、お弁当屋さんや、持ち帰りすし屋さんだと思います。初期の頃は、「あんな、どこの家でも簡単にできるものを、わざわざ買いに行く人がいるのか。しかも100円もだして。」というのが大方の見方でした。でもあるコンビニ会社は（セブンイレブン

ジャパンだったと思いますが。）米や具などの味の向上に非常に力を入れました。これらの企業努力の結果、結局誰も「おむすび」を買いに行こうと思うと、考えずにひとりでコンビニに向かって車を走らせるようになりました。

建築設計を行う本筋の職業は建築士です。でも住宅の設計では、その重要部分の建築計画で建築士資格のない社長さんや、営業の方が行っている場合の方が多く、建築士は設計のある一部分、または製図のみ行っているのが現状だと思います。

「そんなことは百も承知だ。」といわれると思います。でも、これでよい、仕方がないと言ってよいのでしょうか。

新年にあたりもう一度よく考えてみたいなと思っています。



下諏訪流鎗馬



## 情報提供を積極的に

諏訪地方事務所建築課建築課長

竹内 繁夫

これからの時代はグローバル化、規制緩和が最も重要との世間の風潮をそのまま鵜呑みにして、世界の潮流に取り残されているであろうわが身を猛省しつつ、益々固くなった頭をやっとこ切り替え、これで世界標準に近づいたかと安堵した途端にグローバル化の最先端に位置していた金融のバブルが弾けました。

我に返って周囲を見回したところ、日本全国いずれの地域もがたがたで、地域の個性なんぞは埋没してしまっている現実を直視し、事の重大さにやっと気づいた次第です。インターネットの出現により、目に見えぬ何かに操られ世界中でグローバル化に突き進んだようですが、グローバル化とは急激に個性を失わせることに改めて気付かされました。つまるところ、月並みな話ですが、この日本において私たちが日々豊かな気持ちで、充実して生活するには地域が元気であること、そのためにはその地域独自の有形、無形の文化が地域の皆さんによる地域づくり活動で連綿と守り育てられていくことが重要であると思われます。そして、地域の有形文化の核となるものが建築と景観であるとすれば、建築士の皆さんの活躍、取り組みが地域の将来を左右する、そんな思いが湧き上がってきます。

甚だ独断的で短絡的な話となりましたが、この地域づくりの活動に支援するため、長野県では「地域発 元気づくり支援金」の制度を用意しています。会員の皆様方のなかにはすでに十分御存知で、活用されている方もいらっしゃると思いますが、改めて御紹介させていただきます。この制度は、平成15年度に創設され、地域住民の皆さんが地域の活性化等を目的に自発的に取り組まれる活動のほぼ全てを支援対象としている間口の広い制度です。ハード事業、ソフト事業いずれも支援の対象となり、様々な事業が県下各地で支援を受け、諏訪地域での採択事業は、平成20年度は58件、7,020万円となっています。次年度の支援事業の募集を毎年明けに行っており、現時点での御紹

介では来年度採択には間に合いませんが、地域づくりは継続性が重要であり、制度は存続するものと思われまので、地域での活動を計画されたときには是非御相談くださいますようお願いいたします。地域づくりは住民の皆さんの現状への危機感や未来への思い、やる気などが契機となって動き出すものと思いますが、何かを行うには資金も必ず必要となります。県財政上の制約もあり、活動費の一部を支援させていただくことしかできませんが、建築士の皆さんが取りまとめ役となって、本制度を御活用いただき、地域づくりに御活躍されることを期待しています。

なお、「地域発 元気づくり支援金」の制度概要及び平成19年度の活用事例は長野県公式ホームページを、諏訪地域での平成20年度の採択事業は諏訪地方事務所の公式ホームページを御覧ください。

### 長野県遺産建築の いろいろ



富士見町旧中央東線の鹿ノ沢石橋



諏訪鉄山の万石跡

# 委 員 会 報 告

## 反省ばかりの2年間

総務委員会 委員長

春 間 光 也

一期2年間総務委員長を務めさせて頂きありがとうございました。又、至らぬ点が多く3役、委員会の皆様、会員の皆様にはご迷惑をおかけしたことと思います。2年間を振り返ってみるとやり残した事が多々あるように感じます。

諏訪支部定款の改正は、言葉の言い回しを解かりやすくして、誤解のない表現に変更したり、役

員選出規程等の見直しを行ないました。しかし、詰が甘く、改正までは進むことが出来ず検討事項となっています。又、会員大会に於いては、19年度が飯山、20年度は松本で行なわれ、多くの会員の皆様の出席をお願いしましたが、取りまとめ等いたらぬ点が多く思うよう結果が出せませんでした。特に21年度の会員大会は、地元諏訪で開催が決定されていることもあり会員の皆様のご協力無しでは成功出来ません。その他課題は多いですが諏訪支部一丸となり盛り上げていけるよう引継ぎ等密に行きたいと思っております。2年間ありがとうございました。

## 活動を振り返って

教育委員会 委員長

青 沼 完 次

平成19年度から20年度にかけて教育委員会の委員長をやらさせて頂きましたが、とても誉められるような活動は出来なかったと思っております。力不足で申し訳ございませんでした。

一昨年、昨年と建築基準法の改正、建築士法の改正等があり建築士としての責任が年々重くなっ

てきている中、景気はますます悪くなり来年度はいったいどんな年になるのだろうかと心配になります。こんな時こそ建築士として意識の向上、技術の向上なくしては、この厳しい時代を乗り切っていけないのでしょう。

今年度は「住宅瑕疵担保法」また「長期優良住宅普及促進法」の施行がきまっており、それに関しての住宅ローン減税等においても勉強しなければならぬ事がたくさんありそうです。教育委員会の皆さん、皆で勉強できる場をたくさん設けて頂ければ幸いです。

## 事業委員会の活動について

事業委員会 委員長

今 井 将 喜

まもなく委員長としての任期も終わろうとしていますが、これも会員の皆様のご協力のおかげと感謝しています。さて事業委員会の最大の行事は木工教室です、20年度は茅野会場と岡谷会場の2ヶ所で開催しました、建築士会会員と一般の親子の方との交流が唯一できる行事です、最近では人気も高まって大勢の親子の参加があり作品もかなり上級なものを製作しています。木工教室となればやっぱり設計士より大工さんのほうが一枚上手のようです、来年も参加したいと言う親子がとても多いので会員の皆さん次回も奮って参加を

お願いします。

今後の課題としては、人気のある木工教室ですが建築士会をどのようにしたらもっとアピールでき、地域の設計士さん建築会社さんここに有りと言えるのか？……と思います。

次に20年度は応急危険度判定の模擬訓練を行いました。判定士の資格はあっても、いざ災害が起っても何をしたら良いのか？どんなことをどの様にするのか？その為に今回は判定のやり方を実際にやってみました。しかし、まだまだ課題は山積みです。いざと言う時対応できるよう訓練は地域の防災訓練同様に継続して行かなければと思っております。

これからも事業委員会は会員の交流、一般の方達との交流の場を作り建築士会のアピールに努めてもらいたいと思っております。

## 活動を振り返って

まちづくり委員会 委員長

村松 健 敏

この数年、各市などからまちづくりや景観行政への協力を依頼される機会が増えています。

一昨年は諏訪市からサンロード商店街の道路拡幅に伴うまちなみ景観の検討を依頼されました。商店街の方と一緒に何回も会合を重ねてまとめていく課程は大変でしたが、貴重な経験となりました。すでに拡幅工事が始まり、3年間で事業が完成する予定です。本町商店街の電線地中化に伴う歩道整備も着々と進行しており、2年後には一定の成果が見られると期待しています。

岡谷市からは景観行政への協力を求められ、一昨年は市主催の景観ワークショップに参加し、昨年はこれをもとに市との協働によって景観マニュアル案を作成しました。これには8名の方が参加していただいたことにより幅広い意見が出され、

内容的に面白いものになったと思っています。

また、昨年は士会会員が調査員となり長野県近代化遺産総合調査が行われましたので、この機会にと近代化遺産の勉強会を開催いたしました。地域の貴重な遺産を知る機会になりました。

力不足を感じながらも、これらの依頼に何とか対応した2年間でした。地元建築士のさらなる取り組みが求められているように感じます。



金沢研修旅行

## オトナの課外活動

青年委員会 委員長

伊藤 淳

毎年行われる県建築士会の「青年建築士の集い」や、関東甲信越ブロック会の「青年建築士協議会」に出席すると地区外や県外の若い建築士・女性建築士がどんな事を考え、活動しているのか分かり、大いに刺激を受け、また、仲間も増えます。

諏訪支部青年委員会では過去に片倉館のライト

アップに関わったり、設計コンペ参加や、繭倉の調査をしたりしてきました。どれも一人でやっていたのでは関わることのなかった貴重な経験です。

現在、青年委員の間では電子メールで情報を交換しています。まだ、私とメールでやりとりしていない方は、「はらから見たよ」と [seinen@arcsuwa.com](mailto:seinen@arcsuwa.com) までメールを送って下さい。携帯電話からでもOKです。



# 大工のひとりごと

CPD委員会 委員長

向山 淳

私は経験年数45年の大工です。中学を卒業後、建築一筋に歩んでまいりました。夏の暑いときもお日様をいっぱい浴びて汗だくで、冬は雪の中凍えながら、毎日毎日玄翁を振り鋸を挽き、雨にも負けず風にも負けず住宅を作ってきました。昔は和室など真壁の家が多く大工の腕の見せ所でした。ボードやクロス、化粧合板が出てきて和室が少なくなり、刻みもプレカット屋さんが全部してくれて、建て前も若い衆がバンバンやっていて私などの出番はますますなくなってまいりました。

近頃始めた若い衆は、墨付けなんか出来無かったって家一軒建っちゃうんだからびっくりしちゃう。現場でもトントン、ギコギコなんて音なんかしやしない、ビービー、ギャーギャー電気工具の音ばかりでうるせえったらありゃしねえ。最近、自然素材が見直され石油化学製品より昔ながらの

材料がずいぶん使われるようになって来たが、耐火ボードにペロッと1mmや2mm塗ったくえれでなんか効果あるのか？ドイツだかの何が入ってるかわからない高い塗料なんか塗ったりするより、精米所行って糠をもらってきて擦った方がよっぽど安心じゃねえかなーと思いました。

猫の目のように変わる今の建築には私はもう付いて行けません。

(これは私の仲の良い大工さんが言っていたことです。少し皆さん考えてみませんか？腕の良い職人がどんどん辞めてます。)



## 「晩秋の静岡 オモシロ建築めぐり」感想文

青木 賢一郎

11/29,30で建築士会諏訪支部青年委員会の研修旅行で、静岡方面に行ってきました。初日の最初に向かったのは藤森照信氏の設計した「秋野不矩美術館」です。RC造でしたが、一部エントランス部分が木造でした。外壁は藁入りのモルタルに櫛引き模様になっていました。内部の天井と壁は藁入りの漆喰塗りでした。次に向かったのは安藤忠雄氏の設計した「富岡中学校の体育館」でした。2つの多角形の建物で、体育館らしくありませんでした。中には入れませんでした。なんだか狭そうでどうやって運動をするのか考えてしまいました。初日最後に向かったのは藤森照信氏の設計した「ねむの木子供美術館」でした。秋野不矩美術館と非常によく似ています。どんぐりのような形をした建物で、壁には花の絵が描かれていてかわいらしい建物です。次の日に向かったのは「明治村」です。明治の頃に建てられた建築物が

ここに移築されています。その中でもやはり目を引いたのは、フランク・ロイド・ライトの帝國ホテルです。全体的に重厚感のある建物で、この中でお茶を飲んだのですが、落ち着いた雰囲気良かったです。今回この研修で見て廻った建物は、普段見ることがなかなかない物なので、非常に楽しめました。みなさんも機会があれば行ってください。



ねむの木子供美術館にて



# 夏休み木工教室

今年も建築士会のPRイベント「木工教室」が、8月10日に岡谷、茅野の2会場に分かれて同時開催され、多数の参加者を集める事が出来ました。参加者の中には心待ちにしている方もおり、大盛況でした。又、士会の方々の指導により、作られた作品も見事なものでした。御協力頂きました士会の皆様には、暑い中本当にご苦労さまでした。

## 岡谷会場



お母さん大奮闘



茅野会場



親子で協力！  
すばらしい宝物が  
できました。



## 県建築士会諏訪支部、行政と災害時協定へ

2008年11月25日に、県建築士会諏訪支部と茅野市を除く5市町村との間で、地震など災害時に避難施設の建築物応急危険度判定協力に関する協定が締結されました。調印式は諏訪市役所の特別応接室で、建築士会諏訪支部の代表6名と市町村長が同席のうえ行われました。これにより、既に(2006年2月)協定を結んでいた茅野市を含め諏訪地方の、全市町村が県建築士会諏訪支部と災害時協定を締結したことになります。代表して諏訪市長より「諏訪地区はいつ大地震が起こってもおかしくない。何かあったときは専門家に見てもらおうことが安心につながる」と挨拶がありました。



調印



日時：  
平成20年11月25日(火)  
場所：  
諏訪市役所5階特別応接室

岡谷市長：今井 竜 五氏  
諏訪市長：山田 勝 文氏  
下諏訪町長：青木 悟氏  
富士見町長：矢嶋 民 雄氏  
原村長：清水 澄氏  
建築士会諏訪支部長：太田 清 人氏

各首長との覚書の取り交わし



### フォトギャラリー by MIYASAKA

今回メンバーで写真愛好家の宮坂忠彦さん(スカイホーム宮坂)の写真をお借りしてギャラリーを開設いたしました、今後も機会を設けメンバーの作品を紹介していければと思います。



高ボツチより諏訪の夜景



京都南禅寺

### 編集後記

2年間の委員会活動の締めとして、第60号「はらから」を、発行することが出来ました。これは、皆様の御協力なくしては出来ないことであり、心より感謝申し上げます。

特に、寄稿頂いた方々には、お忙しい中、時間を取って頂き本当にありがとうございました。又、情報広報委員の方々にも、委員長としての自覚のない

私に御協力頂き、心より御礼申し上げます。

今後の「はらから」については、時代の変遷により、どの様な位置づけで発行して行くのか難しい問題もあるかと思いますが、これについては次年度の検討として考えて頂きたいと思っております。

情報広報委員長 平林 治

■発行者 (社)長野県建築士会諏訪支部・諏訪地方事務所内 TEL0266-58-6624 〒395-0021

■編集責任者 平林 治・松下 稔・樋口建司・塩原美晴・中澤良一・篠原幹夫・蟹沢正巳

この用紙は古紙100%再生紙を使用しています。